第72回全国高等学校PTA連合大会「2023宮城大会」への参加報告

日頃より、育友会活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会「豊かな杜につむぐ虹の光」（8月24日・25日）が、仙台市内6会場で開催され、本校から、福光校長先生と大西の2名が参加しましたので、報告いたします。

　大会初日、私は第５分科会「防災・減災教育」に参加し、東北大学災害化学国際研究所の佐藤翔輔准教授から、「実践的な災害対応能力を身につけるための“これから”の防災教育案」を聴講しました。東日本大震災後の調査研究を踏まえての講演では、「人生は危機・困難だらけ、危機・困難を乗り越える力（災害対応能力）を身につけて欲しい。」「一般的知識と人から直接学んで対話をしてもそれを固定化しない。伝承によりリスク回避ができた地域がある一方で、過去以上の津波により回避できなかった地域がある。」「危機・困難の対処に必要な「８つの生きる力」として、感情制御、問題解決、リーダーシップ、愛他性、自己超越、頑固さ、エチケット、能動的健康が必要」と強調されました。

防災・減災への人の意識は、生活する地域により違いがあります。本校の多くの生徒は国内外の様々な地域へ進学・社会人として生活を始めます。危機や困難に対応できる８つの生きる力を養い、得られた知識を固定化せず、リスクを回避・緩和できるよう努めて欲しいと思いました。

　大会2日目は、今年夏の高校野球選手権大会の準優勝校、仙台育英学園高等学校野球部 須江 航 監督の記念講演「伝わる言葉〜失敗から学ぶ〜」を聴講しました。

甲子園準優勝から２日後、帰省翌日の講演に驚き、自身の経験と理念を熱く語られる姿に冒頭から引き込まれました。須江監督は、昨年夏の選手権大会で東北勢初の全国制覇に導いた監督さんです。高校時代は同じ仙台育英に所属されていますが、「練習試合に一度だけ、シートノックの守備に入っただけだった。」と挫折の経験を聞きました。それでも学生コーチとして野球を続けられ、大学でも野球部の学生マネージャーとコーチを経験。大学卒業後、仙台育英系列の中学校に赴任し、野球部創設と同時に監督に就任され、７年後には中学校軟式野球全国大会で優勝。そして、2018年から仙台育英での指導が始まります。

『人生は敗者復活戦』 と甲子園で敗北後に語った言葉は、須江監督の座右の銘。「大切なことは、挫折と向き合うこと」「挫折のない人生なんてないし、面白くないし、存在しない。みんな挫折してるんだよってことを理解して欲しい。そこから面白みを感じて努力することが大事なんだと思う。」また、「自分は野球の技術を見せることはできない。言葉や情報を整理することしかできない。伝わる言葉ってどうしたらいいのかなと考えていて、伝わる言葉って、結論は一つしかないんです。相手が聞きたいことしか伝わらないのです。私が伝えたいことが伝わるのではなくて、相手が教えて欲しい、聞きたいことしか伝わらないんです。伝えたいと思ったら生徒に聞くしかない。聞くことがほぼ全てだと思います。何を求めているのか聞くしかないんです。」などのお話がありました。

須江監督さんは、野球を通じて社会に出て生き抜く力を養って欲しいと言われています。高校生活は人生の土台づくりに大切な時期だと改めて認識し、残る子育ての期間を楽しみ関わることの大切さを考える機会になりました。　　ご拝読ありがとうございました。